

地区別説明会（島松地区）

第5期恵庭市総合計画について

日時 平成27年9月7日（月） 18:30～19:30

会場 島松公民館 集会室

参加人数 20名

1. 開 会
2. あいさつ
3. 第5期恵庭市総合計画について
4. 質疑応答

（市民） 第5期総合計画の10年間で、年度別の工程スケジュールがあればわかりやすい。

これから超高齢社会を迎えるにあたって、高齢者がいつまでも元気に過ごしていける施策があれば良い。例えば、自然と接しながら自給自足できるような方策も入れていただきたい。

（事務局） 第5期総合計画の10年間の工程は基本計画、実施計画で策定している。恵庭市総合戦略でも平成31年までの間に行なう具体的な事業を上げている。

超高齢社会に伴って生産人口が減少していく問題も危惧しているが、高齢者が働ける環境があれば生産人口は減らない。それに、15歳から65歳までの方、全員が働いているわけではない。子育てが終わった方や、子どもを預けて働きたい方のために保育所の枠を増やした。交通手段や働ける場が確保できれば、働きたいと思っている方はたくさんいる。生産人口が減っても就業人口を増やして一定の所得を確保できるように目指している。東京圏にいる元気な高齢者を地

方に移住させるCCRCも検討している。

(市民) 市民まちづくりワークショップ、市民まちづくりトークにはどのような方が参加したのか。

(事務局) 市民まちづくりワークショップは一般公募による21名の市民、市民まちづくりトークは市内の各種団体の方が参加した。

(市民) この先、日本の人口はどのように推移していくと想定しているのか。

(事務局) 日本の人口は2008年にピークを迎えた。2060年には8,700万人程度と想定している。国は2060年に1億人を維持したいと考えているようだが、厳しいだろう。

(市民) 今後、空き家が増えるが、空き家の活用や、空き家情報の発信の仕方をどのように考えているか。

(事務局) 市役所で空き家バンクを行なっている。民間の不動産屋でも移住・定住の取り組みをしている。北海道の移住・定住情報が載った雑誌等もある。道外から恵庭市に移住してくる方の雇用が課題。住む場所はあるが、働く場所がなければ、移住・定住につながらない。情報の出し方を変える必要がある。

(市民) 西島松の「ふれらんど」について、パソコンやスマートフォンで情報発信しているか。また、情報発信して紹介するのは良い取り組みだと思うが、その後のフォロー（交通手段等の情報がない）がなっていないように感じる。

(事務局) 恵庭市には外国語表記がない。道内の市町村と比べると恵庭市に来る外国人旅行者は少ない。情報発信はやらなければいけないと考えている。外国人向けにマップをつくることも検討している。

(市民) 将来都市像でも「花」を最初に掲げているが、恵庭市にはそんなに花がない。どのような花の政策の構想があるのか。

(事務局) 道と川の駅と恵み野の住宅の一部だけで、恵庭市には花がない。公共施設を中心に花を植える「花のまちづくりプロジェクト計画」を練っている。

(市民) 人口を減少させないためには、病院や産婦人科などの子どもを産む、育てるための施設が必要。産婦人科は恵庭市に一つしかない。この先の考えはあるか。

(事務局) 産婦人科に限らず医者が不足している。恵庭だけでは難しい。近隣のまちと協力して、広域的に対応していくことが必要と考えている。

(市民) 開発された恵み野里美や東には、恵庭市外からの移住が多いのか。

(事務局) 恵み野里美には5割から6割が札幌からの移住と聞いている。恵み野東には7割が市内から、3割が市外からの移住である。恵庭市の人口が6万9000人を久々に超えたことも市外からの移住が進んでいる表れである。ただ、自然減の傾向が続いていることにも、目を向けなければならない。

5. 閉 会